

小学校における取組「コミュニケーション能力の育成を通して」

西尾市立西尾小学校

1 はじめに

小学校のキャリア教育で、特に子供たちに身に付けさせたいものは「自己肯定感」であると考えている。それには「人」とのかかわりが、不可欠であろう。西尾小学校では、家庭で「しつけ」学校で「教え」地域で「育てる」を基本姿勢に、地域と共鳴しながら学校教育がなされている。

小学校でのキャリア教育は全教育活動を通して機能させることが可能である。日々の取組をキャリア教育の視点からとらえ直してみると決して特別な活動ではなく、キャリア発達にかかわる4領域・8能力は様々な場面ではぐくまれると言えよう。その中でも特に「人間関係形成能力」を付けさせたい。そのための手だてとして、「コミュニケーション能力の育成」と「自己肯定感の育て方」に重点を置いた。これらは子供たちが「ひと」とつながり、かかわることで培われ、はぐくまれる。子供たちを取り巻く「ひと」とは、家族・子供・町の人・教師である。キャリア教育を通して、子供たちが今の自分を知り、可能性のある自分を信じ、人とよりよくかかわりつながることで、未来に向けてなりたい自分を実現できるように願い、本実践を行った。

2 本校とキャリア教育

本校ではキャリア教育の目標として「小さな社会でしっかり学び、大きな社会でたくましく生きる」を掲げている。

(1) キャリア教育を支える4領域の能力

キャリア教育ではぐくむ4領域の能力を、本校では次のように、更に具体化している。

- ① 人間関係形成能力（コミュニケーション能力・自己肯定感・あいさつ・感謝・協力・信頼）
- ② 情報活用能力（働くことに興味関心をもつ・働くことの意義が分かる）
- ③ 将来設計能力（自分の役割を知る・夢や希望をもつ）
- ④ 意志決定能力（自分で考え自分で行動する・責任を持って行動する）

(2) キャリア教育における位置付け

子供を取り巻く「ひと」と「場所」については、次のように認識している。」

子供たち・・・自己と他者相互受容

教師・・・・・・一人一人の課題に対応した支援

町の人・・・・・・職業理解のための支援

町・・・・・・小さな町づくり人・社会人としての実践の場

家族・・・・・・生活上の多用な役割や意義及び関連等を理解し、自己の果たすべき役割などについて認識を深める場

(3) ねらい

ア コミュニケーション能力の育成

＝互いに考えを伝え合い、感情を理解し合う力 【人間理解】

【クラスの雰囲気づくり】

コミュニケーションタイムでコミュニケーション能力の土台づくり

イ 実体験を取り入れ、人とのかかわりの中から自己肯定感を高める。

ウ 総合的な学習・町学習でコミュニケーション能力を生かす。

今までの学習経験や生活経験のすべてを総合的に活用する場の設定

＝問題解決のプロセスを重視する。

(4) 手だて

- ① 全学年を通してコミュニケーションタイムを設定し、コミュニケーション能力を付ける。

【電子カルテ「あゆみ」から見るコミュニケーションの力の育ち】

【コミュニケーション能力を付けるスキル】（資料1 巻末）

- ② 国語科・・・「話す・聴く」の単元実践でスキルを身に付ける。

【1年生「きいてきいてよんでよんで」】

生活科・・・五感を使った体験を大切に、主体性を引き出す。

【1年生「木は友だち・うっ木っホーランドをつくろう」】

- ③ 総合的な学習の時間（町学習）で話し合いの授業を取り入れ、問題解決能力を付ける

【5年生「ここがすごいぞ！職人さん」・仕事体験】

- ④ 家庭との連携・・・家族の大切な一人として自覚する「めざせ！スーパー一年生」カード

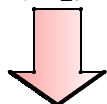
(5) 本校のキャリア教育にかかわる活動ステップ

愛着・・・身近な人や場所への愛着を深めつつ、町の中で・・・・・・1年



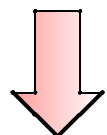
自分にはぐくまれているんだという情緒の安定、
安心感をもつ。

共感・・・自然や人の痛みや喜びを共感でき、自分と環境の・・・・・・2年



かかわりを積極的に考えようとする。

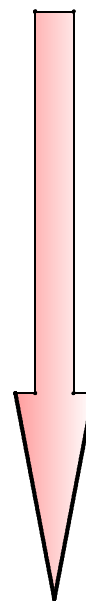
参加・・・何らかの環境や福祉の改善につながる具体的な行・・・・・・3年・4年



為・行動に向けて情報を駆使しつつ、参加しよう
とする。

提案・・・自分の意思表示や提案・表現する力を高め、現実・・・・・・5年・6年

の課題に前向きに対処していこうとする。



キャリア教育と関連性のある 総合的な学習の時間・生活科	職業的発達に かかわる諸能力	発達課題
1年生「木は友だち」	人間関係形成能力	【自分と他者を理解する力】 友達と仲良く遊び助け合う
2年生「見て！さわって！感じて！やぎのいのち」	人間関係形成能力	【自他の生命を大切にする】 やぎの飼育・世話・出産
「聞いて西尾のむかしばなし」	情報活用能力	【社会で共に生きる力】 町の人に昔話を聞き、町に関心をもつ
3年生「大好き！この人！この町」	人間関係形成能力	【コミュニケーション能力】 町のすてきな人見付けをし、仲良くなる
	情報活用能力	【情報収集】 インタビューの仕方を学ぶ
4年生「聞いて！城 下町の水の声」	情報活用能力	【情報を集め活用する力】

	意志決定能力	水質調査・川マップづくり 【自らの課題を見付け解決する力】 川をきれいにするために自分たちでできることを考え実行する
5年生 「西尾の職人 見付けよう！キラリ輝く 心と技」	人間関係形成能力	【コミュニケーション能力】 あいさつ・職場体験事前交渉活動
	情報活用能力	【職業理解能力】 職場体験を通して働くことの大切さややりがいを知る
	将来設計能力	【計画実行能力】 職場体験計画を立てる
	意志決定能力	【選択能力】 自分の決めた職場体験活動を最後までやり抜く
6年生 「提案！21世紀の町づくり」	将来設計能力	【課題解決能力】 将来の夢や希望をもち実現に向けて努力しようとする。 【計画実行能力】 町改造の計画を提案する
特別支援「うさぎさんとなかよし」	人間関係形成能力	【自他の生命を大切にする】 うさぎの飼育・世話・出産

(6) 方法

ア 西尾の町と人材を生かす

- ① 町にかかわる対象として学区に住む「職人・働く人」を取り上げる。 【地域教材】
- ② スピーチで養ったコミュニケーション能力を町の人とのかかわり合いの中で生かし、伸ばす。
【コミュニケーション能力の活用と育成】
- ③ 聞き取りや見学などによる調査内容を、発表やポスターセッションなどを通して表現する。 【表現活動】

イ 主体的な学びを目指して

- ① 将来の職業生活や人間としての生き方に夢や希望がもてるよう、主体的な職業体験活動を取り入れる。 【職場体験】
- ② 町学習と各教科のそれぞれで身に付けた知識・思考や技能などを意図的に関連付ける。
【町学習と各教科との相互関連＝共振し合う学習活動】
- ③ 体験や調べ学習を中心とした個人追究と、思考を中心とした全体追究のプロセスを、単元に位置付ける。 【知の交流】
- ④ 個の学習状況に応じたアドバイスをする。また、学習カードへの朱書きを通して、子供自身が適切に判断し、主体的に活動できるように支援する。 【教師支援】
- ⑤ 時間を効果的に使い、深く追究する態度を養うために、夏季休業中に職場体験活動を設定する。
【追究活動における十分な場と時間の保障】

3 実践の実際

(1) コミュニケーション能力をはぐくむ実践

(資料1参照 巻末)

ア 目標

- ① 身の回りや社会にかかわる題材を見付けてスピーチをすることができる。

- ② スピーチの内容にかかわらせながら，自由な雰囲気で，思いや体験を基にした意見交流をすることができる。

イ 西尾小学校のコミュニケーションタイムの特色

- ① 給食の後の15分を利用して実施する。
 ② 一人，若しくは，数人のスピーチと，その後の意見交流で構成する。
 ③ スピーチはクラス全体に話題を提供するという立場で話す。聞く側は，話すために聞くという聞き方をし，スピーチの内容にかかわらせて，積極的に意見交流をする。
 ④ 意見交流では，基本的に何を発言してもよいという姿勢で行う。

ウ コミュニケーションタイムで育てたい力

	内 容	技 能	
低 学 年	・身の回りのものや出来事を話すことができる。 ・自分のしたこと，見たこと，聞いたことの体験を話すことができる。	話し手	・「です」「ます」を使い，語尾まではっきり話す。 ・主語と述語を使って話す。 ・必要に応じて，身振りを加えたり，絵や写真を使って話す。
		聞き手	・話し手を見ながら聞く。 ・スピーチに対する感想を言う。
中 学 年	・自分のしたこと，見たこと，聞いたことの体験を詳しく話すことができる。 ・体験に，自分の思いや考えを加えながら話すことができる。	話し手	・5W1Hを入れながら話す。(いつ・どこで・だれが・何を・どのように) ・スピーチメモを活用して話す。
		聞き手	・うなずきながら聞く。 ・スピーチの内容と自分の体験を重ねながら聞く。 ・一番言いたいことは何か考えながら聞く。
高 学 年	・社会的な事象や事実に目を向け，自分の意見を入れながら話すことができる。 ・場面が浮かぶように詳しく話すことができる。	話し手	・話す順番を意識して話す。 ・ものを見せるなど，聞き手を引き付ける工夫を考えて話す。
		聞き手	・表情豊かに聞く。 ・スピーチの内容と自分の体験を関連付けながら意見や感想を言う。 ・自分の考えとい違うところはどこか考えながら聞く。

《電子カルテ「あゆみ」から見るコミュニケーション能力の育ち・1年生の実践から》

【分析の視点 スピーチにおけるユーモアの研究】

『あゆみ』の記述より，実際に話したように言った「起っきろー」や「ぷりぷり」のように動きを的確に表した言葉が話し手のスピーチに勢いを付け，猫の様子を視覚化できたことで，聞き手とユーモアの共有ができた。身振り手振りを使っておかしさを見せて，効果的に面白さを視覚に訴えた。また，笑いを起こすことで多

「ネコの顔まね」

ペットのネコについての話で，「ぼくのうちのミーは，ぼくのベッドの上でこーんな顔をして眠っていました」と言いながら，ネコの顔まねをした。彼の頬を膨らませたおかしい顔は，みんなの笑いを誘った。「ぼくが『起っきろー』と言ったら，おしりをぷりぷりやって走っていきました」と楽しそうに話を続けた。

6月15日「電子カルテ」より

くの聞き手の興味を引き、話し手もその笑い声により、リラックスし、話すことの喜びを感じているようだった。

【分析の視点 スピーチが次の行動の動機付けになることはあるか】

児童Aがスピーチで言った「ありがとう」という母親への感謝の言葉が、学級の多くの子の心に響いた。児童Bは、「給食のおばさんに『ありがとう』と言いたい」と話した。

その後、他の多くの子供たちは、母親にうれしいごはんを作ってもらったことや父親に遊んでもらったことなどを思い出し、家に帰ってそれぞれの家庭で、感謝の言葉を家族に伝えた。そして、その感謝の言葉が翌日のスピーチで語られると、その対象は、学校でお世話になっている人たちへと広がり、感謝の言葉『ありがとう』の輪ができていった。児童Aのスピーチの内容が、学級全体の行動の動機付けとなったと言える。

「ありがとうの輪」

昨日のスピーチで、児童Aが「お母さんが、ブドウを買ってきてくれました。すごくおいしかったので、『ありがとう』と言いました」と話した。それを覚えていたのか、今日のスピーチ者は、「お父さんが、釣りに連れて行ってくれたから『楽しかったよ。ありがとう』と言ったら、…」と話した。児童Bは「今日の給食の焼きそば、すごくおいしかったから給食のおばさんに『ありがとう』と言いたいです」と話した。

7月18日「電子カルテ」より

(2) 1年生生活科での実践 <人間関係形成能力を育てる>

「木は友だち ーうっ木っ木ーランドをつくろうー」

- 目標 ① 自己肯定感を養う・・・棟梁、友達とのかかわりから、自分を見つめる。
② 主体的に活動させる・・・遊びや遊び場を考え、必要な物を計画を立てて準備する。

活 動 内 容 ()は配当時間を表す	獲得させたい職業的発達にかかわる諸能力
錦の森で遊ぼう (2) 錦の森で木と遊ぼう (2) ・錦の森や木に関心を向けるため、放課に木で遊ぶ子たちの遊び方を広め、学級で遊ぶ活動をする。 木とともだちになろう (2) 木の達人にお話を聞こう ・【大工の棟梁】木の達人から、木を使った遊び場づくりの提案を聞くことで、その活動への意欲をもつ。 ・【木の博士】五感を使って木と触れ合う方法を教えてもらい、木への愛着を深めるために、木の博士(常葉大学教授)を紹介する。 みんなで秘密基地をつくろう (6) 丸太を用意することで、放課にも木を使って自由に遊べるようにし、木の遊びの経験を積む。一方で、遊びの発想を広げるためのブランコなどは生活科の時間だけの設置に制限し、不足感と安全面の意識をもつ。 【棟梁と一緒に】 葉っぱのお面で遊ぼう (1) 伊文神社のどんぐりや大王松の松ぼっくりを拾いに行く。 ・実や葉っぱでおもちゃを作って遊ぶ。 ・木のバッジを作る。	情報収集・探索能力 人間関係形成能力 職業理解能力 情報収集・探索能力 役割把握・認識能力 人間関係形成能力

木のブランコを作ろう ターザンロープを作ろう 登り綱で遊ぼう 綱渡りで遊ぼう	
うっ木っ木ーランド祭りをしよう (19) ランドの計画を立てよう (3) (資料2 巻末) ・ランドづくりにじっくり取り組む場を保障するために、その期間、錦の森の借用を全校に許可してもらい提案をする。 ・具体的なもので分かりやすくし、子供のかかわりを活性化するために、模型や写真などを用いる。 ランドを作ろう (10) (資料3 巻末) ・自分たちが作ったという自覚をもつために、材料の運搬や（一部の安全な）作業に取り組む時間を設ける。 材料運び のこぎり引き 穴掘り ロープ結び みんなで作ったランドで遊んでみよう (2) ・安全に気を付けて仲良く遊ぶ。 祭りの計画をたてよう (2) ・木の実を使った飾りやおもちも取り入れる。 ・模型を使って場所や地形にあった遊び場を考える。 お家の人や幼稚園の子を招待して祭りをしよう (2) ・祭りを成功させるという気持ちを高めるために、お客さんを招待する提案をする。	計画実行能力 課題解決能力 人間関係形成能力 情報収集・探索能力 計画実行能力 課題解決能力 計画実行能力 人間関係形成能力
ありがとう！うっ木っ木ーランド (3) 錦の森を元に戻そう (3) ・安全や後始末の大切さを知るために、取り壊さなければならないことを提示する。	計画実行能力

(3) 5年生 総合的な学習と国語科で職業観・勤労観を育む実践

ア コミュニケーション能力を実践的に活用する。

追究したい職人さんの所へ行行って、子供たち自身が弟子入り交渉を直接行う。交渉の内容としては、弟子として行う仕事の内容や日程等である。何度もお願いに行行って、やっと弟子入りを許してもらい子もいた。教室で培われたコミュニケーション能力が実践的に生かされる場面であった。

イ 職業観をはぐくむ実践・・・職人さんを追究する活動

夏休みを使って、仕事体験をした。「見る」「聞く」「体験する」など五感を使った仕事体験は職業や職人さんの生き方そのものを理解するよい機会になった。

ウ 勤労観を育む実践

(資料4 巻末)

職人さんの生き方に迫る話合いの授業で、後継者問題の記事を取り上げ、職人さんの苦労や生き方をとらえる。国語科「千年の釘にいどむ」(光村図書)の教材の発展領域で鍛冶職人の生き方に迫る。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 教師や家族以外の大人(棟梁)とのかかわりの中で安心感が得られた。それは、棟梁の人柄の影響も大きい。その安心感の中で子供たちは挑戦し、頑張る姿をその場で認めてもらえたことは子

供たちの大きな自信となった。何度も木登りを挑戦する子や発言が積極的になる子も増えた。自己肯定感の芽生えがみられた。

イ コミュニケーション能力では、毎日の積み重ねで、人前で話すことに抵抗がなくなり、「話すこと」「聞くこと」及び「伝え合うこと」を楽しみにする子が増えてきた。そして、視点を設けて分析した結果、かかわり合いのある話合いができるようになってきた。また、町学習での一人調べや町の人との交流の場においても、粘り強くインタビューをしたり、疑問に思うことを聞いたりする子が増えた。

ウ 5年生の国語科で「千年の釘にいどむ」（光村図書）の学習をすることも、職人さんをとらえる上で有効であった。町学習で調べている職人さんのことと、「千年の釘にいどむ」の鍛冶職人^{かじ}さんのことを重ね合わせて、考えるようになった。話合いの場では教科書に出てくる「なっとく」「やりとげる」といった言葉も使用されるようになった。また、国語でも読み取りが深まった。これは町学習での仕事体験や職人さんとのやりとりで実感したことが、大きく影響していると考えられる。

（資料5 巻末）

エ 職人さんの後継者問題や苦労など、様々な職人さんの生き方を考える話合いの授業をすることで、職人さんのよさを広めたいという、主体的な行動をおこす子も出てきた。（資料6 巻末）

（2）これからの可能性

ア 子供たちの追究意欲は様々であるので、一斉に活動を組むのが難しく、授業以外の時間にも頼ってしまった部分がある。

イ すでにキャリア教育が行われている学校区の中学校を視野に入れた単元づくりと連携方法の構築が必要である。

ウ 電子カルテを使って個のキャリア教育に関する記述を中学校に送り、連携方法の確立を図ると一層効果的なキャリア教育になる。。

5 おわりに

町の職人さんや働く人は、子供たちに様々なことを教えてくれた。子供たちにとって職人さんはあこがれの存在であり、尊敬すべき人物となっていた。また、今回の様々な経験は、子供たちの生きる力の土台となるであろう。彼らが大人になる過程の様々な場面で、今回の実践で学んだことが思い出され、職人さんの技や心から学んだことが「生き方」に反映されることを願う。

コミュニケーション力をつける①

○コミュニケーションを円滑にするための四つの基本原則

- ①目を見る ②ほほえむ ③うなずく ④相づちを打つ

☆「目を見るために」

【アイコンタクトゲーム】

- ①クラス全員が立つ。
- ②スピーチをする間に、聞き手と一人一人目を合わせていく。
- ③しっかりと目が合ったと思った人から座っていく。全員を座らせることができたら合格。

※何となく見たではだめ。はっきりピンポイントで、焦点を当てて見るんだよ。1～2秒でいい。目からレーザービームが出ている感じで。一人一人確実に目を合わせていく気持ちで。

☆「ほほえむために」

※やはり必要なのは意識と練習です。欧米の家庭では、子供に「ほほえみ」を練習をさせるそうです。鏡の前に立たせ、口の横あたりをフツとゆるめる。そう言えば、すれ違ふとき、知らない人にでも、あいさつ代わりにフツとほほえんでいくことが多い。中学年あたりから仕込むと身に付きやすいと思います。是非練習を！

☆「うなずく・相づちを打つために」

【うなずき君、相づち君ゲーム】

スピーチの合間、合間に、聞き手は「うん」と声を出しながら大きくうなずく。タイミングは、文の切れ目の「マル」のところで合いの手を入れる感じである。話し手は、合いの手を意識して、意味の切れところで間を置く。聞き手は、みんなそろえてコクンと頭を下げる。相手の読みを意識し、呼吸を合わせる練習である。

例)「あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。」「うん」「おじいさんは山へ芝刈りに行きました。」「うん」「おばあさんは川へ泳ぎに行きました。」「うん」・・・

※最初はだれでも知っている昔話がいい。「うん」を「へー」とか「なるほど」「そうですね」などに置き換えると、『笑っていいとも』調になり、楽しく相づちを打つ練習になる。

コミュニケーション力をつける②

☆「ことばで伝える」

【ことばだけで伝えるゲーム】

《準備》クラス全員に（話し手はのぞく）、白紙を配る。

- ①代表児童に下のような記号や図形を見せる。
- ②話し手は、ことばだけでその形をクラスみんなに伝える。聞き手は、それを白紙にかく。
- ③話し手は、答えを黒板にかく。聞き手は、隣どうしで紙を交換し、100点満点で採点をする。50%が100点だったら合格。
- ④どのように話せば正確に伝わるか話し合う。

※聞き手には、話し手の内容を予想して書くのではなく、聞いたそのままにかくように指示する。小グループでやってもおもしろい。

コミュニケーション力をつける③

☆「からだで音読する」

【準備体操】

- ・軽くジャンプ
- ・からだをゆさぶる（肩が動くように）
- ・からだを液体化
- ・四股立ち
- ・肩入れ

【最速読み】

- ・速く正確に読む。間違えるところまで読む。1人読み。

【点回し読み】

- ・「、」「。」で次の人に移る。「、」「。」で間をあげない。前の人の最後の一語と次の人の最初の一語を重ねる感じ。少人数でもクラス全体でやってもおもしろい。

【からだで音読】

- ・二人一組。おんぶして音読。おんぶの下の人が読む。おんぶして歩きながら読む。声を腹から出す。踏みしめるリズムに声を合わせて読む感じ。

【一冊読破】

- ・5時間かけて『坊ちゃん』を読破。大きな自信につながる。

コミュニケーション力をつける③

☆「からだで音読する」

【準備体操】

- ・ 軽くジャンプ ・ からだをゆさぶる（肩が動くように） ・ からだを液体化
- ・ 四股立ち ・ 肩入れ

【最速読み】

- ・ 速く正確に読む。間違えるところまで読む。1人読み。

【点回し読み】

- ・ 「、」「。」で次の人に移る。「、」「。」で間をあげない。前の人の最後の一語と次の人の最初の一語を重ねる感じ。少人数でもクラス全体でやってもおもしろい。

【からだで音読】

- ・ 二人一組。おんぶして音読。おんぶの下の人が読む。おんぶして歩きながら読む。
声を腹から出す。踏みしめるリズムに声を合わせて読む感じ。

【一冊読破】

- ・ 5時間かけて『坊ちゃん』を読破。大きな自信につながる。

—本時の学習—

【資料2】

(1) 目標

自分が考えたランドの構想や遊具などを、絵や模型を使って言葉で表現することができる。また、1年2組のランド計画に自分の願いや考えをかかわらせていくことができる。

(2) 身をのり出して学び合う子どもの姿

ランドの計画がみんなの考えを重ね合わせてできあがっていく中で、「同じ樹木に複数の遊具は作れないのではないか」「この場所にこの遊具は危険ではないか」等の疑問や問題に気づき、これまでの経験などを根拠にして自分の考えをかかわらせていこうとする姿。また、それが教室で解決できなければ、実際に現地を見に行こうとする姿。

(3) 学習過程

○身を乗り出すための手だて

学習段階	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援
つかむ (10 分)	1 年2組の「うっ木っ木ーランド」計画を立てよう。 1 自分の考えたランド計画を発表する。	- 発表意欲を高めるために、棟梁のツリーハウスの計画も発表の中に取り入れる。 - 子供たちが教室で、ランドの全体像を見ながら考えて議論しやすくするために、錦の森の地形図を用意する。
深める (20 分)	真ん中の木Bには、何を作ろうか。 2 今の計画の疑問点や問題点を話し合う。 ・そんなにたくさん作れないよ。 ・同じ木にいっぱい作れないよ。 ・ブランコは、他の木にも作れるよ。 ・おばけの基地は、木Aと木Bの間が面白いよ。 ・がけすべりの下におばけ役の子がいると面白いね。 ・この斜面は急だから、登り綱が面白いよ。 ・木の家は斜面の反対側に作ればいいよ。 ・がけすべりと、登り綱はぶつからないように通道路の方向を同じにしよう。	遊具を作るのに適した樹木や場所には、複数の遊具の計画が重なるだろう。そこで、一カ所を取りあげ、そこに何を作るのかを話し合わせる。その際、単に作りたいたいという思いだけでなく、これまでの経験や地形、木の形状を根拠に挙げて説明できるように支援する。
まとめる (15 分)	3 疑問点や問題点を解決するために、模型を使って場所の話し合いをしたり、現地へ見に行ったりする。 ・ブランコやターザンロープは、木Cにも作れそうだね。木Aは、家がいいよ。 ・斜面は、やっぱり登り綱が面白そうだね。 ・おばけのいる場所はここがいいよ。	樹木や地形の具体像が分からないために解決できない問題については、実際に現地を見に行くことを促す。

(4) 評価

これまでの経験や地形・木の形状などを根拠にして、ランド全体像や個々の樹木・場所に適した遊具を考え、1年2組のランド計画にかかわることができたか。

15

木はともだち



うっ木っ木ーランドにどんなあそびばをつくろうかな？
なまえ ()

あたしは、いちばんひ
みつきちがつくりたいべ
す。おおきいひみつ
きちをつくりたいで
す。ダイヤ、ぶらんこもた
のしか、たけれどわ
たしは、ひみつきち
がちからをあわせた

つくりたいもののなまえ
ひみつきち
どこに (ひみつきのどうくつ)

木のかわ
ざいりょうとか
くわしく
かいているね
みんはで力を
あわせるということが
いいね。

からみつ



思ったこと・感じたこと

① 職人さんは、後つきがないことか1番の関心点だと思
います。

② この仕事をやる前にやめてしまった職人さんめほとんどの理由
だと思ひます。

③ 他の職人さんにも楽しい苦労をしてほしいです。

④ ちうしなどでおしえてあげたい(町の人に)

⑤ ④は残らないみえ
どうして

⑥ ⑤は残らないみえ
どうして

11月2日	授業内容 自分の職人さんと同じ所が無いと思 っていたけど、以前あった。職人さんといふ共通なことが 前に作った物より新しい物を作るとお気持
11月8日	授業内容 白鷹さんの金工作りにかける思い。職人さんといふ思い が、カービィや、必死など、いろいろな大 事なことが出てきて、職人さんはずいぶん 大変な思いをした。

授業記録 10月30日(火) 3時間目

本時の活動 みんなの力で「職人さん」にしてあげられるこ
を話しあおう。

詳しく品、作品をわたす。

職人さんのことをせんでんする。(チラシなど)
ポスターをはる。ーしゃくしにきかえる。 ひらくばり

西尾市以外 西尾の人によひかけ 1 回らんはん

新聞写真 職人ぼしゅう 第1回ぼしゅう どの職人さんをも 検索すまて きてくれかい

西尾市のホームページ 西小の ホームページ アクセス 数ある 2つやるー ホームページ ポスター

職人の技 店の場所 生きがい、伝統を守 りたい 電車の居

愛知県 ぐなうい。

思ったこと・感じたこと

新聞をやるのは、めんどろって、いっている人からいって、職人さんのためな
ためすたいけは、せまほうかいとて。

お父さんが、名鉄のかんけいしやなので、きいてみたいです。

いいところがあるね。
どこに聞いたらいいか、聞いてみて!